

【総合球技場のあるべきすがた】

■立地の視点

山梨の強みを生かす

- リニア開業による立地の優位性を生かすものであること
- 周辺環境と調和した山梨らしいものであること

■機能の視点

県民の「見るスポーツ」などを充実するとともに地域の発展の可能性を広げる

- サッカー、ラグビー、アメリカンフットボールなどの競技が実施でき、上質な臨場感がその場の一体感を醸成、観客等の満足感を高めるものであること
- 県民の交流の場となるとともに、広域交流人口の拡大を生み、定住・移住を促進できるものであること
- スポーツやイベントを通じて、地域経済への波及効果を創出し、本県の振興に大きく貢献するものであること
- 県民の健康増進に寄与し、高齢者や障害のある人なども気軽にたどり、感動を共有できるものであること
- 若者に夢や希望を与え、県民のシビックプライド（山梨に対する誇りや愛着）を育むものであること
- 観光資源、スポーツツーリズムの拠点として滞在を促すものであること
- 山梨のランドマークとして、常に本県の新鮮な情報を国内外に発信できること
- 災害発生時に防災拠点としての役割を担い、地域の防災力を高めるものであること

■整備・運営の視点

県民の負担を軽減する

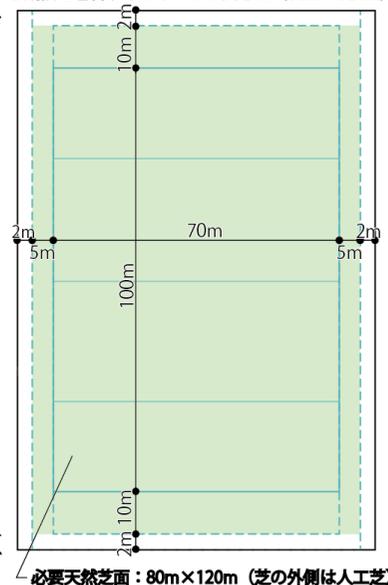
- 本県にとって適正規模となること
- 建設のための財源確保・効率的な運営手法を念頭に置くこと
- 利用用途を多様化し、収益の上がる仕組みを組み込んだものとする

【収容人数、施設機能などの基本的項目】

■フィールド寸法

- ・サッカー、ラグビー、アメリカンフットボールに必要なフィールドを包括する寸法： $80\text{m} \times 120\text{m}$
- ・維持管理として必要な周辺区域： $2 \sim 3\text{m}$
- 「フィールド寸法： $84\text{m} \times 124\text{m}$ 」

3競技を包含するフィールド大きさ（ $84\text{m} \times 124\text{m}$ ）



■収容人数

- ・各種基準に基づく設定： $20,000$ 人以上
- ・新設実績・新設計画からの推計： $19,000$ 人
- 「収容人数  $20,000$  人程度」

■附帯機能

- ・建設場所や周辺環境等を基本条件とし、附帯機能の需要、イベントの需要等を考慮のうえ、設計・整備することが望まれる

【整備・運営の考え方】

■建設費 ⇒最近10年程度の間に建設された4施設の状況

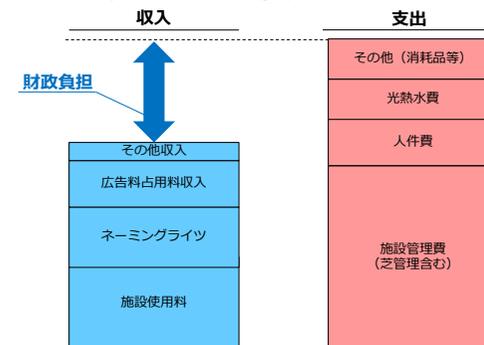
- ・総工費は、 $80$  億円～ $140$  億円程度
- ・1席当たり単価は、 $352$  千円～ $606$  千円
- ・本県の財政状況を踏まえた上で、附帯機能等も十分考慮した検討が望まれる
- ・国等からの助成金の活用が求められる

■運営収支 ⇒2万人規模の3施設の状況

- ・既存の公共球技場施設の運営収支は、**収入<支出**
- ・ネーミングライツの増収等により公共の負担を削減していくことが求められる

■整備・運営手法

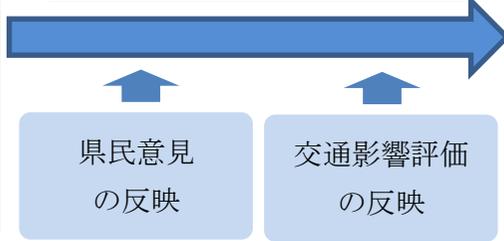
- ・事業目的、収益事業の事業性、資金調達手法、時間的制約等、様々な要素からの判断が必要
- ・建設場所やその周辺環境等を運営の視点から整理し、最適な整備・運営手法を採用することが必要



**【候補地抽出における主な条件】**

- 収容人数：約2万人
- 敷地面積：約9万m<sup>2</sup>（本体3万m<sup>2</sup>+駐車場6万m<sup>2</sup>）
- ◆リニア環境未来都市内（半径4km圏内）
- ◆一団の用地取得が可能（住宅・事業所等の連坦なし）
- ◆公共交通とのアクセス性が高い
- ◆県有地等の活用可能性がある
- ◆リニア開業時までには整備可能である

**【建設候補地選定の考え方】**



**2箇所を抽出・検討**

- リニア駅前（リニア駅周辺整備地内）
- 小瀬スポーツ公園周辺

**リニア駅前（リニア駅周辺整備地内）**

- ・リニア駅・中央自動車道と直結
- ・リニア駅周辺整備エリアを活用

**小瀬スポーツ公園周辺**

- ・リニア駅から車で約5分  
（新環状道路東部区間利用を想定）
- ・小瀬スポーツ公園周辺の用地を取得

**立地の視点**

メリット	課題
・交通の利便性による広域からの高い集客性	・地域住民やリニア駅利用者等への配慮が必要

**整備・運営の視点**

メリット	課題
・リニア駅周辺整備と一体整備で財政負担軽減 ・ネーミングライツの価値向上等収益の増加に期待	・最適な整備・運営手法の導入に配慮

**機能の視点**

メリット	課題
・交通の利便性を生かした大規模イベント等の開催による交流人口の拡大 ・リニア駅と総合球技場が一体的なランドマークとなり、山梨ならではの特徴ある施設として、国内外への情報発信が可能	・リニア駅を起点に、県内各地を周遊する仕組みづくりが必要

**立地の視点**

メリット	課題
・総合的なスポーツ拠点の主要施設として活用	・地域住民や試合観戦者以外の利用者等への配慮が必要

**整備・運営の視点**

メリット	課題
・公園全体としての一体的管理運営で効率化 ・スポーツを中心とした機能の集約	・最適な整備・運営手法の導入に配慮

**機能の視点**

メリット	課題
・総合的なスポーツの拠点を生かした大規模イベント等の開催による交流人口の拡大 ・本県を代表する総合的なスポーツの拠点として国内外への情報発信が可能	・利用用途の多様化による稼働率や集客力の向上のための取り組みが必要

**それぞれにメリット等があり、両論併記で報告**